会　議　録

件　名	柱本小学校と三石小学校の再編統合計画に関する説明会・意見交換会 （第２回　紀見北中学校区地域住民）
日　時	令和８年９月１２日（土）午後６：30 から午後８時 00 分まで
場　所	紀見北地区公民館
参加者	地域住民１８名 今田教育長、岡教育部長、阪口参事、家田学校再編推進室長、棚田学校再編推進室長補佐、南指導主事、今山主任

教育長挨拶、資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。
本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

１－１．前回もこの説明会に出させていただきました。それからずいぶんこの話が進んでるなというところなんですが、このスクールバスのルート等、精密に考えておられるということがよくわかったんですけども、気になったのが、このスクールバスの運転者は業者委託なんですか。

（教育委員会）

バスは運転手のいるバス事業者に委託していく予定で考えています。

１－２．北陸自動車道のことがあったので、しっかり業者に適正な値段で発注していただければ有難いというところなんです。このスクールバスは業者が持ってるバスを使用するということでいいですか。

（教育委員会）

バス事業者はバスも所有されていて、運転手も二種免許、お客様を乗せる免許を持っている運転手を採用しているバス事業者に委託をしたいと考えています。

２．バスを二種免許でということでご回答いただきましたが、行きは２便でいいんですけど、帰りは３便としたら、小学１年から６年の間で授業の内容、それからクラブ活動がどうなるんか僕らもちょっとわからないところですけども、積み残しは、各家庭にお任せするわけですか。別の町のスクールバスの業者に聞いたときに、最後の子がクラブが終わって帰るまでマイクロバスに１人か２人載せて走ると聞いたことがあるんです。ただ保護者側としたら、自分たちの子供が学校で残って何かをしたときは、最終３時とか４時とか区切られた３便目で帰らないと、もうあとは各家庭の問題ということになってしまうのかどうかというのは、ご配慮というかまたご検討いただきたい。

（教育委員会）

帰り３便にしていますのは、まず低学年の子供さんたちと、中学年、高学年の子供さんたちが終わる時間が違いますので、イメージとしましては、帰りの１便目には低学年の子供さんが乗っていただける。２便目、３便目は中学年、高学年の子供たちが終わる時間、それから少し学校で残っている状況も考えられるので、その子も乗っていただけるようにということで考えています。これは、現在隅田小学校で、過去の学校の統合によってスクールバスが運行しておるんですけども、隅田小学校も同じように３便という体制で運行して、乗っていただける形になっています。学童保育などは保護者さんが迎えに行っていただくということになるんですけども、通常の授業が終わった状況でいいますと、その３便に乗って帰っていただけると考えています。帰りの出発時間につきましては、学校がそれぞれ終わる時間帯がありますので、乗ってもらえるようなダイヤの設定を考えています。

３－１．いつもありがとうございます。スクールバスは子供さんと運転手だけでしょうか。例えば教師の方とか、安全のために保護者が乗るとか。その辺はどう考えられてますか。
（教育委員会）
　スクールバスは運転手と子供たちというで、保護者に乗っていただくことは考えていないです。それから子供たちが本当にバスに乗ったのかなというようなご心配もあるということで、乗降システムといって、バスに乗ったか乗っていないかを保護者のスマホに通知されるシステムを入れさせていただきます。そして、子供たちはバスで通学するのが初めてになりますので、そこのご心配の点もありますので、バス運行が始まる前に、バス事業者さんにも協力いただいて、バスの乗り降りするときに子供たちに十分注意してもらうための安全教育を始まる前に実施をさせていただきたいと考えています。

３－２．できたら慣れるまでのひと月ぐらいでも、誰か付き添いみたいな形でバスに乗ってもらえたら。その辺は学校の方で配慮していただければありがたいと思います。

４－１．バスの進入路のイメージなんですけども、現在ゴミステーションの前の方からという案が出てますけど、その前にプールと学童保育の建物があるんです。それであれば、もう少し南側に移動して運動場に入るような形の乗降場にならないかと思うんです。これからの検討事項かと思うんですけども、要望として考えていただけたらありがたいと思います。
　もう１点バスの運行です。この運行ルートを見れば、この公民館前を通っていく形になってますね。それであれば、下から上がってきたら、狭い道路の通行になってくると思うんです。もう少し南側まで幹線道路で来て、三石南の交差点を右に上がってもらって、ぐるっと回ってくるというふうなルートの方が安全ではないんじゃないかと思います。

（教育委員会）
　説明している案につきましては、公民館の前を通って行かせていただきます。この資料の 16 ページにもあるんですけども、ご存じいただいています通り、学校前の道路が北から南に向いて下っていく状況になっています。この進入路の候補地より、さらに南に行くと運動場とその道路との高さがどんどん開いていく状況があります。そんな状況でバスが上の方から降りてきて、ここの入口から入っていくという行き方が一番入りやすいというバスの状況があります。
　そういったところから公民館の前から通ってきて、北からこの南向いてグラウンドに入っていくような計画をしています。幹線をもう少し南にというご意見としてはいただきますが、今考えているのはそういった形で、バスの車体もそれなりにありますので、直角に回りにくいという状況もあります。北から下ってきて入っていく計画をしているという状況です。

４－３．学童保育の建物が前にあるんで、そこら辺がちょっと危険じゃないかなということが考えられると思うんですけど、そこだけちょっと考慮していただきたいと思うんです。
（教育委員会）
　ありがとうございます。やっぱり子供たちの安全対策が最も大事なとこになってきますので、そこは十分にそういった対応をとれるような形で考えていきます。

４－４．それと学童保育よりもう少し南にもっていってもらったら、学校のバス旅行のときも、学校前の道路に止めて乗降してますやんか。それが次の計画で、学童保育よりもう少し南側にしてもらったら、どうせするんであれば大型バスも入るようにして、バスの研修会とか旅行とかありますし。そこにも十分安全で活用できるんではないかなと思いますので、またよろしくお願いします。

５．バスは基本的にはピストンですよね。２便３便というのは中学年と高学年はちょっと時間差で、１便と２便、３便で待ち時間があるということですよね。それから、最後のスクールバスの乗降システムで乗ったか乗らなかったのか情報が親に届くのはいいんですけど、個々の子供の区別もしてるんですか。我が子が乗った降りたという通知が行くことは、子供たちがタグか何か持って乗るということですか。

（教育委員会）
子供たちにQRコードみたいなのを持ってもらって、それをバスに乗るときに、バスに車載器をつけますので、それに一人一人かざしてもらい、保護者さんは自分のお子さんが乗ったという情報だけが届くというようなシステムになります。

６．資料の６ページの再編統合による新しい学校ということで、児童数の推移を書かれてるんですけども、これ入学者数の予想の方がわかりよいという感じもするんです。柱本小学校が令和14年やったら52人になってるけども、入学者が何人かっていうのは、当然予想されて計算されてると思うんです。なので、3人とか5人とかになるんかどうかというような数字の方が、学級数が少なくなる意味がわかってくると思うんですよ。
実際、先ほどからいろいろ説明してくれました通り、学級は1学年2学級にするのを考えているということはよくわかりましたけれども、実際に40名以上あれば多分２クラスになるんじゃないかは、ちょっとはっきりわかりませんけども、２クラスになるのは何名なんかということもちょっとお聞きさせていただきたいなと思います。
（教育委員会）
まず1クラスの児童数は35名で国・県の方で定められています。それから今日の資料の中では、柱本小学校の1年生から6年生までのこの合計の数字を書かせていただいているんですけども、実際は毎月といいますか、柱本小学校区内の子供たちが、何人生まれているかを字ごとに追っています。それの合計数字をここに書かせていただいていんですけども、柱本小学校で言いますと、今年の3月までの推計で言いますと、令和11年度から新入生は10人にならないといいますか、1桁台になってくるというような推計値です。

７－１．この資料の24ページ、再編統合前の学校選択というところなんですが、これもうちょっと詳しく説明してもらえませんでしょうか。
（教育委員会）
こちらにつきましては、令和11年4月の再編統合が正式に決定してくればということになるんですけども、今年の年長さんの子供さんは通常でいいますと、柱本小学校区内にお住まいの子供たちは柱本小学校へ入学することになります。そのまま再編が進めば、3年生になったときに新しい学校の方に移っていってもらうということになります。翌年ですと令和10年度に入る子供さんは2年生になるときにってなるんです。いわゆる低学年のときに学校が変わると、今の柱本小学校から、新しい今の三石小の場所に変わっていくことになりますので、この低学年のときに学校が変わることの子供たちの負担がどうなのかというのは、たくさんのご意見いただきました。そんな中、2年後に新しい学校に移っていくんであれば、入学する段階で、今の三石小学校のほうに入っていただいて、この図でいうと、緑の方に入っていただいて、1年生2年生は今の三石小学校の方で学んでいただいて、3年生で新しい学校の3年生として入っていただくと、通う学校の場所が変わらなくていいようにという制度になります。
選択できるというのですので、柱本小学校にそのまま入学するのか、三石小学校に入学するのかを、新入生の子とそのきょうだいの在校生の方は選べると、保護者さんが選択できるという制度になります。

７－２．毎回入学式の来賓で見さしてもらってるんですけど、入学生、もう本当に少ないんですね。その中で選択制になると、本当に少ない人数がこっちの学校へ行きたい、あっちの学校行きたい、なんかその辺ね、余計入学式が寂しくなるというか、それで近所の子たちでずっと友達やった子が、別れ別れの学校になっちゃうんかなあと、その辺がちょっと気になったところです。わかりました。

８．先ほどのご意見なんですけどね。今のうちに、先にもう三石小に入るということですよね。少ない6人の子供が柱本小に行ってると3人になったり、2人になってると。そうなってきたら、令和10年度でもう完結してしまいそうになる気がします。それは何でかと言ったら、親御さんからは、子供がかわいそうやという意見をたくさんもらってます。ということは、あなた方の子が行くんやったら、うちの子もそうさしてもらうわと、皆多い方に賛成ということで、ゼロ

になる可能性が令和 10 年度で出てくる。11 年度でも出てくる可能性が必ず起きてくると思います。
　それでもいいということであれば、それはそれで親御さんの考えることですんで仕方のないことなんで、こちらでいくら止めても止められない話だと思っています。やはり子供さん中心に考えると、そういうことは一番大事な問題ですんでね。それをあからさまに 11 年度はそこがねということを言うのは、もう行ってと一緒ですよね。10 年度に変わってくださいというようなもんじゃないですか。選択がある、自由意志ですよと言いながら、例えば 6 人のうちの 4 人がいったらもう 2 人しか残らない。そこら辺をどういうふうに考えていぬのか。2 人でもやる覚悟は先生の中にあるんでしょうか。意味がないと言いませんけど、そういうことになったとしても、そこら辺をしっかり考えていただけたら。
（教育長）
　ご意見ありがとうございます。すごくそこのところは子供のことを考えると、どういう形がいいのかということについては、すごく悩むところではあります。
　こういう説明会を何度もする中で、やっぱり両方のご意見、親、保護者の方が持たれてるんですね。でも、私たちはその思いを、どういうことで残りたい、どういうことで行きたいということをしっかり聞かしてもらう中で、どちらを選択していただいても、しっかりそのあとの教育は、人数が少なくなっても保障していくのは、絶対に守っていかないといけないところであると考えているところです。実際に先行して、もう決定しています恋野小学校や隅田小学校のときにも同じようなご意見いただきました。そして選択してもらってる方、ご家庭もございます。その中で選んだところについてはしっかり私たちも学びが保障できるような、そういうことはとっていきたいと思っていますので、そういう形で進めていきたいと思います。

９．そういう上でも、この入学者の数字は大切だと思う。年度ごとの入学者数は何人か。
（教育委員会）
　今後、転入等で増えたり減ったりの状況はあるんですけども、令和 9 年度に柱本小学校に入学予定の子供さんが 14 人。10 年度は 12 人、11 年度は 8 人、12 年度は 7 人、13 年度は 5 人、14 年度は 6 人です。令和 9 年度の 14 人の子供たちと令和 10 年度の 12 人の子供たちが、このまま決定しますと、選択できるよっていう対象になります。

１０．これ新入生のきょうだいも選べますよね。例えば 2 年間は前回の説明会で、保護者が基本的に送り迎えをせなあかんということですよね。だから、例えば今年 1 年生入るお姉ちゃんが 6 年生におる時に、そのお姉ちゃんは、その新入生と一緒に選ぶことができるという、そういうことで、その場合転校ですよね。これ学籍としては転出になりますよね。柱本小学校から三石小の方に。なるほどわかりました。

１１．先ほど教育長さんおっしゃいましたことで聞きたかったんですけど、もうすでに恋野が今年 4 名ですか、もう隅田小に行かれたというのを聞いたんです。その中で僕らにはわからない範囲ですので、対応としては保護者と子供に選択権があって、それに教育委員会はフォローしていくと、今のところまだ 4 月からだと思うんですけど、目立ったというか、問題というか弊害というか、今後 11 年までにそういうのがあったときに、どのようにお聞きすることができるんかなあと、選択制でこんなことが起きてますとか順調にいってますとか。
（教育長）
　すごく大切なポイントになるかなと思います。やっぱり環境が変わるところは最大限配慮していかないといけないていうことで、今年そういう選択された方の子供さんの様子は、情報としてとっているところですけれども、普通に何もないというか、みんなと馴染んで過ごすことができていると報告を受けているところです。恋野から来たとか、そういうことではなくて、同じ学校の 1 年生ということで、ちょっと適切な言葉は思い当たるのがないので、違いと表現しますけども、そんな違いは全然感じずに、学校としては対応できていると聞かしていただいてるところです。

１２．再編統合前に学校選択した場合は、スクールバスは対象外ですか。

（教育委員会）
再編統合の前に学校選択した場合は、スクールバスは対象外です。令和 11 年 4 月からの運行になります。その点も踏まえて選択いただく形になります。

１３．令和 11 年に新しい学校に通い始める。1 つの学校になる、1 つの中学校に 1 つの学校の小学校の生徒さんが行くと。これで最後の 2 人 3 人になるまで統合はもうないんでしょうか。いずれさみしくここも閉めてしまうというような構想はまだ考えておらない。何か先が見えてるような気がして仕方がないんですよね。
（教育長）
今、第二期の計画でこの取り組みをしております。第二期ということは第一期があったということなんですけれども、第一期のときには西部中学校、学文路中学校、橋本中学校、これを一緒にするというのが実際に行われました。そのときに小学校はどうする、今後の中学校をどうするという辺りも大きく議論をいただいております。その時に出ていたところで言いますと、中学校というのは、ゆくゆくはやっぱり人数が少なくなっていくので、今ある学校数よりは少なくなっていかざるを得ないのかなという意見もいただいておるところです。ですから、まだ決定事項でも何でもないんですけれども、そういった予測のもとで、今回の第二期も検討したんですけれども、中学校は今回はその対象になっていません。ただ、これからのことを考えると、第三期を考える必要が出てくることもあるかなとは思います。
けれども、それはまだ全然検討されていないし、いつというところについては、私ちとしてもご回答できる答えはないんですけれども、やっぱり今後子供数は間違いなく少なくなっていくのは、出生数とかから見ると考えていかざるを得ん時期は出てくるというところまでのご回答になると思います。

１４．礼文島という北海道に小さな島があるんですけどね。ウニ漁師さんがたくさんいて、おいしいウニをたくさん食べてる。そこに現在は 30 人、40 人が集まってるみたいなんですけども、いろんな努力をして、もともと 2 人か 3 人ぐらいしかおれへんかったところを 30 人、40 人、50 人と増えてきた。ところが、おなじ北海道内にそういうことを真似してやってるんで、また少なくなってきてるという。これはもう本当にイタチごっこになってしまってるんかなと思うんですけども。紀見北地区の中で、何ていうんですか、そういうトピックスをこしらえて、日本全国から受けてこういうのがあるよとか、それでみんな安心してこちらに連れてきてもらったらいいですよというような、そういう考えもされたら、ちょっと橋本もよくなるんじゃないの。市のこと考えると、どんどん寂れてくんのがもう本当に目に見えてるみたいなので、その加速度をちょっとでも緩めるためにも、しっかり検討していただけたら非常に嬉しいんですけどね。
（教育長）
教育委員会になりますので、経済的な対策とか、そういうことについては私からお話することはできないんですけれども、やっぱりそれぞれの中学校区ごとで、特色ある教育をしてますよということについては、しっかりアピールしていく必要があるかなと思っております。
今も 5 つの中学校区あるんですけれども、昔、私たちが子供だった時代は、学校は学校のことということで、地域の方にいろんなことをしてもらいながらというのはほとんどなかったかなと思うんです。けれども、今は子供たちの教育活動に地域の方、保護者の方も参画いただきながら、同じ方向を向いて、この子供たちをどう育てていくんやっていう辺りのことをしっかりと話し合う土台ができつつあります。
これは一朝一夕にできることではなくて、10 数年かかってここまで来てるんですけれども、そういった特色を打ち出していく、この紀見北中学校区の教育の特色はこうですよというようなところを出している部分もあるんですけれども、またこれについては共有させていただいて、協力いただけるところは協力いただけたら、より一層その特色が広まっていくかなと思います。私としてはそういう取組はしていきたい、していってる状況ですので、またご協力いただけるとありがたいです。ありがとうございます。

１５．紀見北中学校の成績、素晴らしいと思うんですよ。全国平均を上回ってる学校が和歌山県に何個あるかどうかわかりませんけども、だからそこら辺のところの教育環境の整ったこの

紀見北地区をもっとPRできるものじゃないんかというところが、私は悲しいなと思ってるんですよ。

岡潔の名前は出したくないけども、日本の心を持つその岡潔の育った土地で、こういう教育環境の整った地域を本当に宣伝できない。先ほど言うてくれたように、そういうPRのできない橋本市であっては具合悪いと思うんですわ。だからそういう点において、ほんまにこの教育環境の整った土地をもっと上手く利用できる方法、人が来てもらえる、やっぱり1人1クラス35人、40人の紀見が丘で、三石台以外の地区で柱本小学校区で、やっぱり30人40人の子供を育てられる。私たちは昭和16年生まれですけれども、34名のクラスありました。だからそういう地域であって、ほんで750人もおった時代もあった、その子供たちがこちらへもう1回帰ってきて子育てできるという体制が作られてないんじゃないかなと思うんですよ。だからそういう体制づくりをもっと市としてやって欲しいと思います。